

上川口小学校

「自ら学び 豊かにかかわり合い たくましく生きる 児童の育成」
「アクティブに鍛える」

校長 石川 真紀

◆はじめに

本年度は、7名の新入生を迎え、全校児童44名、教職員11名(学習支援員を含む)、6学級(複式学級1組を含む)編成で教育活動がスタートしました。

本校の児童は、明るく真面目で、上級生が下級生の面倒をよく見ることができ、学年を越えて仲良く遊ぶ姿がしばしば見られます。

毎週水曜日の朝は、児童会や委員会が中心となり、交替で学校の玄関前に並びあいさつ運動をしてくれます。今年に入り、学校全体のあいさつがますます良くなってきました。嬉しく思っています。地域の方々にも、いつも恥ずかしがらず笑顔で元気なあいさつができるように願っています。

◆学校教育目標・研究主題
「自ら学び 豊かにかかわ

り合い たくましく生きる 児童の育成」が学校教育目標です。子どもたちが大人になる頃は、今よりはるかに情報化、グローバル化が進み、変化の激しい時代になることが予想されます。知・

徳・体のバランスの取れた力を身につけ、アクティブにたくましく生き抜くことができる心身ともに強い人に、周りの人を大切にでき、思いやりのある優しい人

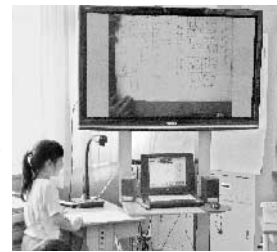
に育つようにと、教職員が丸となり取り組んでいます。研究主題は、「自分の思いや考えを豊かな表現で伝え、互いに高めあい行動できる児童の育成」とし、チーム上小は以下の4つのプロジェクトを組織し研究を進めています。

◆知を鍛える〜学力向上プロジェクト
ユニバーサルデザインを展開しながら、主体的・対話的で深い学びを実現できる授業改革を進めています。児童が学習の中で、言葉の意味や働き、使い方などに着目し、より言葉への自覚を高め、関係性を捉えたり

問い直したりして豊かな使

い手となるよう指導しています。

ICT活用推進校として、児童がパソコンやタブレットを授業や色々な発表会、取材活動などに使用し、情報処理・活用能力を高めていきます。



また、「いつでもどこでもみんなが読書」を合言葉にして、学力を上げる土台となる読書活動を

活発にし、読解力と豊かな感性を身につけるようにしています。朝の読書や家庭読書、目標冊数・ページの設定、必読図書選定など仕掛けをたつぷりと準備しています。地域の読み聞かせボランティアの方々のも

大きいものとなっています。

◆徳を鍛える〜徳の向上プロジェクト
いつも「児童ファースト・子どもが主人公」を心がけ、

日常における児童の実態把握と分析をしながら、一人ひとりの自尊感情を高め、集団が高まる学級経営を行っています。児童会を中心

に自主的な活動として、全校レク、良い行いがあったら葉っぱが増えていく「ありがとうの木」など、仲間意識を高める取組を続けています。本校には子どもたち自身が考えた「上川口小五か条」があります。

①よびきりをしない
②自分がされていやなことはしない、言わない
③相手の気持ちを考える
④いけないことをしていたら見て見ぬふりをせず注意する
⑤一人ぼっちを作らない

学校生活を送る中で、これらを意識し守ろうとする姿が見えます。学期末には児童会がアンケート



シートを取り集計をして発表し、全員で考える機会を設けています。

◆体を鍛え・命を育む〜体力向上、命の教育プロジェクト
毎朝8時前から、体育委員のリードのもと全校ス

トを取り集計をして発表し、全員で考える機会を設けています。

レッチ、朝マラソン(夏期は除く)、一輪車練習や縦割り班サーキット運動が始まります。日々の地道な継続した体力づくりとともに、体育の授業の工夫・改善を進めています。

防災・安全教育では、浸水が予想される学校として地震・津波避難訓練の時間帯や方法を変えながらの毎月の実施、近年危険が高まっている大雨・風水害の学習、防災教育参観日の実施(引き渡し訓練、隔年の炊き出し訓練)などを危機感を持って保護者・地域とともに進めています。

◆ふるさとキャリア上川口

ふるさとを愛し誇りをもち、人の役に立てる生き方ができるように、コミュニケーションの一員としての自覚を持った児童に育てていきたいと考えています。そのためには、まずは子どもたちが地域を知ることが必要となります。発達段階に応じた地域学習や交流などで地域の方たちと触れ合わせ、体験活動をし、ふるさとを愛する心を、今後もしっかりと育んでいきたいと思っています。

ふるさとを愛し誇りをもち、人の役に立てる生き方ができるように、コミュニケーションの一員としての自覚を持った児童に育てていきたいと考えています。そのためには、まずは子どもたちが地域を知ることが必要となります。発達段階に応じた地域学習や交流などで地域の方たちと触れ合わせ、体験活動をし、ふるさとを愛する心を、今後もしっかりと育んでいきたいと思っています。

田ノ口小学校

「主体的に活動し心豊かに
たくましく生きる児童の
育成」をめざして

校長 濱田 俊二

◆はじめに

本年度は新入生2名を迎え、全校児童38名、教職員10名の5学級編成(1・2年複式)で教育活動を進めています。

学校教育目標を「主体的に活動し心豊かにたくましく生きる児童の育成」とし、「知」「徳」「体」を中心として子どもたちの成長を支援すべく取り組んでいます。

◆学力向上に向けての取組

本年度は、研究主題を「主体的・対話的に学びあう児童の育成」とし、算数科を通して取り組むこととしていきます。

子どもが主体的に学習できる授業づくりを目指して次のことに取り組んでいます。

- ノート指導(考える、説明する、振り返る)
- 予習を基にした授業づくり
- ICTの効果的な利用
- リーダー学習の推進

- ・来年度の複式学級の指導に生かす
- ・主体的に活動させる
- ・学習の進行の仕方を学ばせる
- ・子ども同士のかかわりを持たせる

4月に行われた標準学力テストでは、学年差はあるものの、全国と同等の結果を残しています。全国学力・学習状況調査の結果からは、基礎学力の定着と思考の問題において課題が見られま

す。理解したことをいかに定着させるか、そして、いかに学んだことを活用させるかが大きな課題です。授業改善とともに予習復習のさせ方に今年度は取り組んでいきたいと考えています。

◆読書活動の推進

毎週水・木の朝読書の時間に、読書ボランティアが来てくださるようになりました。今年で8年目となりました。4名のボランティアが、季節や行事、児童の実態

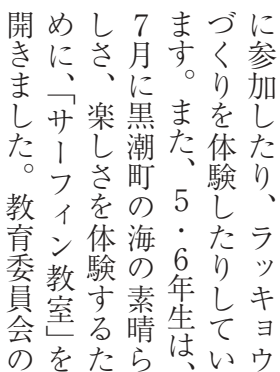


に合った本を見つけて読み聞かせをしてくださっています。

本年度はこれまで以上に読書活動に力を入れる予定です。子どもたちに本好きになつてもらおうと考えています。たくさんの本の入れ替えもします。新刊は子どもたちが選んでいきます。図書館をリニューアルし、子どもたちが来たくなる部屋にします。また、図書館を増やし、子どもたちが利用しやすいようにします。本校は上林暁の母校です。文学好きの子どもたちが育つてくれたらと思います。

◆ふるさと・キャリア教育

黒潮町ではふるさと・キャリア教育をすすめています。故郷を愛し、故郷に誇りをもてる子どもたちに育つてほしいと思います。本校でも、Tシャツアート展に参加したり、ラッキョウづくりを体験したりしています。また、5・6年生は、7月に黒潮町の海の素晴らしさ、楽しさを体験するために、「サーフィン教室」を開きました。教育委員会の



コーディネートや地域のサーフショップの協力があり実現できました。これまでに、見ているだけのサーフィンが身近に感じられ、自然の素晴らしさも体験できたのではないのでしょうか。こけてもこけても何度も挑戦する子どもたちの姿。難しいことに挑戦して成功した時の喜びも感じてくれたのではないのでしょうか。これからは故郷の良さをどんどん体験し、故郷をもっともっと好きになつてほしいと思います。

◆あいさつ運動の推進

昨年度、ソーシャルスキル学習の中で、「あいさつ」について学びました。本年度はさらに推進すべく「い

つでもどこでもだれとでも」をモットーにあいさつ運動を進めています。「おはようございます」と元気な声で校門を子どもたちはくぐってきます。職員室や校長室にあいさつをしに来てくれる子どもたちも増えました。しかし、まだまだ十分なあいさつはできていません。1学期は児童会の取組で拡大あいさつ運動として、通勤する車に向けたあいさつをおこないました。中には、会釈を返してくれたり、手を振ってくれたりする車もあります。あいさつは人を幸せにしてくれます。いっぱい幸せを届けられる子どもたちに育つてほしいと思つています。「いつでもどこでもだれとでも」、これからも継続していきます。



拡大挨拶運動